なっ!?


プルプル


お!!
ズーン


あんっ
あっ
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡


ドクンッ
ドクンッ
くんくん♡
くんくん♡
ハァハァ
チュッ♡
ハァハァ
チュッ♡
ハァハァ
チュッ♡
ハァハァ
チュッ♡


ドクンッ
ドクンッ
おぉっ♡
んぉっ♡
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡


ドクンッ
ドクンッ
あんっ♡
あぁ♡
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡
チュッ♡

ドクンッ

ドクンッ

おぉっ♡

んおぉ♡

ビュルルル


ぺろぺろ♡
ぺろぺろ♡
あ～ん♡

「くっ……よくもこんな破廉恥な姿にしてくれたわね！すぐに解きなさい！」

なっ!?

「へへへ、獣人は暗示がかかりやすくて助かるぜいくら怒ったって、その体は俺の命令どおり指一本動かせねえよ」

「威勢がいいのもここまでだ！
お前のこと気に入ったからな
今日からお前を俺の花嫁にしてやるよ」

「誰があなたのような犯罪者の花嫁になんかなるものですか！
ふざけないで！」

くっ

「ほら、お前の可愛いまんこにちんぽぶち込んでやるからな」

お!!!

「ひやあぁっ!? 入って……奥まで入ってきちゃうぅ嫌、抜いてぇ！」

ズニュ

「こんな男、キモいだけなのに……♡」

「うぁぁっ、あんっ♡なんで……体がどんどん気持ち良くなっちゃうのぉ……♡」

あっ♡あっ♡あっ♡

んんっ

チュッ♡

チュッ♡

チュッ♡

チュッ♡

「あ、あぁっ♡旦那様ぁ……っ♡」

ビクンッ

「お？今なんて言った？俺のこと旦那様って呼んだかw？」

ビクンッ

（あ♡）

ん♡

チュッ♡

チュッ♡

チュッ♡

チュッ♡

チュッ♡

「い、今のは違うわ！
強いオスの種を欲しがるのはメス獣人の本能だから
仕方ないじゃない……っ♡」

ビクンッ

「へへっ、可愛いこと言ってくれるねぇ
じゃあ可愛い花嫁さん、俺に何をしてほしいんだ？」

んおっ♡

おおっ♡

ハメチュッ♡

ハメチュッ♡

ハメチュッ♡

ハメチュッ♡

「んチュッ……ふぁあ♡旦那様、指ぎゅって組んで……恋人繋ぎしてほしいのぉ♡」

ヒクンッ

「その手繋いだまま私の子宮に旦那様の濃い精液いっぱい注いでぇえ♡」

あ♡あ♡あんっ♡

チュッ チュッ チュッ チュッ

ビクッ

イッちゃう♡♡♡

おおおっ♡

イッ♡おお♡

ビクビク

「はぁ、はぁ……っ♡
旦那様のおちんぽぉ…しゅごごい…♡」

ぺくんっ♡

ぺくんっ♡

あへぇ♡

「もう……逃げないですぅ…
わたし、旦那様の本当のお嫁さんになります……♡」